

## いすー3GP 初代チャンピオンに



▲伊藤太陽さん  
前列の左端



キャスター付きの事務椅子に座り、直線30mのタイムを競う「いすー3GP（グランプリ）」の小学生大会が一宮市で全国初開催されました。競技には18人が参加し、大口北小学校4年生の伊藤太陽さんが、7秒09のタイムで見事初代チャンピオンに輝きました。太陽さんは「どんなことも一生懸命、頑張ることが大切だなと思った。優勝できて嬉しい」と、喜びを語りました。

10/21  
土

## 中地域見守り勉強会 地域のやさしい目を増やそう！



団塊世代が75歳以上になり、超高齢化社会となる「2025年問題」を目前に控え、大口町中地域自治組織（糸野・垣田さつきヶ丘）が勉強会で、見守りの重要性を学びました。

見守りの実践に向け、農作業や犬の散歩、買い物途中など「気にしなから行動することが大切」「タスキを身につけるとよい」など、多くの意見やアイデアを出し合いました。これらは中地域自治組織で整理され、今後、地域の皆さんと一緒に進められます。

10/25  
水

## 農林水産大臣賞に輝く



▲左から鈴木町長、3代目前田臣代さん、4代目土谷由希子さん

全国山林畑品評会の「苗ほ」部門で、ヒノキのコンテナ栽培をしている前田樹苗園（大屋敷）が、最高賞の農林水産大臣賞を受賞されました。前田さんは「自分たちが育てている苗が評価され、スタッフの励みにもなり、非常に嬉しく思う」と喜びを語りました。



ヒノキのコンテナ栽培は15年ほど前から全国的に始まりました。以前は畑で苗を栽培する方法が一般的で、戦後から昭和40年代まで大屋敷地区でも大屋敷種苗組合があり、苗栽培が盛んにおこなわれていたそうです。前田樹苗園がコンテナ栽培を始めたのは12年前。2代目前田道孝さんが6000本からスタートし、2年後に3代目前田臣代さんが引き継ぎました。当初はコンテナでの生育方法の確立がなく、毎年試行錯誤を繰り返しながら、「10万本出荷」の目標を7年目に達成。現在12万本を出荷されています。

4代目 土谷由希子さんと大口町役場を訪れ、町長に受賞を報告され、「町内でヒノキ苗などを育ててみえるとは知りませんでした。栄誉ある受賞おめでとうございます」と、鈴木町長は受賞をたたえました。

10/11  
水

あなたの身のまわりの「まちの話題」をお寄せください。  
 問合せ先 役場 秘書広報室 95-1616  
 「まちの話題」は大口町 NPO 登録団体 ZOOM が取材・編集をおこなっています。



## 中地域自治組織 西小学校でつれさり防止教室

西小学校の1年生を対象に、江南警察署と中地域自治組織による「つれさり防止教室」が開催されました。「黒い帽子」、「黒い服」、「眼鏡」など怪しい人というイメージの恰好をした人だけが、怪しい人ではないこと、怪しい人に声をかけられたら「いやー」ときっぱり断ること、手をつかまれたときはどうするのかなど、実践を通して学びました。

10/11  
水



## 令和5年度 北地域避難・防災訓練

「北地域自治組織避難・防災訓練」が、初めて大口北防災センターと多世代が集う憩い広場でおこなわれ、住民、企業、町職員等約200名が参加しました。参加者は、避難所体験、給電システム、災害時のドローンの活用などを学び防災への意識を高めました。北地域自治組織の防災部会長は「訓練で得た体験等を参加できなかった方にも伝え、日頃から備えてほしい」と話していました。

10/21  
土



## 南保育園でさつま芋掘り

南保育園の年少から年長の園児が、同園の畑「南保ガーデン」で野菜作りをお手伝いしている大口町 NPO 団体「南食育サポート」と一緒に、さつま芋掘りを体験しました。土を少しずつ掘り出して、丸々と育ったさつま芋を収穫。泥まみれになりながら、「こんなに大きいのがあったよー」と、歓声が上がりました。収穫したさつま芋は保育園で調理され、美味しくいただきました。

10/12  
木



## ふれあいまつり2023

▲ふれあいまつり 子どもたちに大人気の「おおぐち元気戦隊ダッシュマンショー」

11月4日(土)、5日(日)ほほえみプラザ周辺で「ふれあいまつり2023」が開催され、多くの来場者で賑わいました。

まちづくり団体、子ども会、小学校PTAや企業、行政が協力して、さまざまな催しを出展。多くの人たちのふれあいの場となりました。「今年には新型コロナウイルスに伴う規制が緩和され飲食ブースが復活しました。皆さんに楽しんでもらえたら嬉しいです。新しく出展していただいた団体にも感謝しています」と、ふれあいまつり実行委員長前島由美さん。